

青山杉雨作品年譜（一九三六年～一九六二年）

古木 誠彦

九州女子大学人間科学部人間発達学科
北九州市八幡西区自由ヶ丘二二（〒八〇七―八五八六）

（二〇二二年六月七日受付、二〇二二年七月十九日受理）

作品年譜作成について

青山杉雨（本名・文雄）『一九一二年～一九九三年』、一九九二年文化勲章受章）は、書芸術の中で、特に漢字分野において作品制作を行い、常に書の時代性について模索しながら現代的表現を追求し続け、書道教育や書芸術の後継者育成にも尽力した書家である。

また、戦後の昭和から平成にかけて、日本書道界の漢字・仮名・篆刻・近代詩文・前衛の各分野を代表とする有力な作家とも積極的に交流を持ち、日本書壇の構築と、将来に至る書芸術の在り方を示唆した貢献は多大であると言えよう。

二〇一二年は青山生誕百年にあたり、東京国立博物館と上海博物館（二〇一三年春開催予定）においてもその記念回顧展が開催される程、青山の功績は現在も国内外で広く認められている。また近年、青山に関する書籍が多く出版されるなど、その書業が一部の専門家だけではなく、一般にも理解し易い現状になってきた。特に『青山杉雨文集 第一巻～第五巻』（岳陽舎）は、青山書芸

術観をあらゆる方向から網羅掲載し、解説を行っている。

青山は、漢字分野の中でも特に中国古代文字を表現対象とし、中国書法史上でも表現されることがなかった新表現を開拓した功績が顕著であったため、青山杉雨作品と言えば篆隸作品が主、と一般的に考えられているであろう。

しかし、青山作品を考えるに、行草作品に関して、表面的には中国明清時代の書風を単に踏襲しているかのように見えるが、詳細に鑑賞分析すると、その中に独自の筆法・章法を駆使し、また紙・墨・筆などの材質にも工夫しながら、伝統的技法との融合とそこから新機軸を生み出す実験を続けていたと看取できる。

一九八〇年代の書道界は、前代までの書表現からの変化を安易に求めるあまり、作品制作に中国明清時代の書風を基調とするが、その技法を歴史的見解から理論付け体系的に捉えることが不十分であった。青山著『明清書道図説』（二玄社・一九八六年印行）が、その意義を呈し、青山自身もその実践を行っている。つまり、青山の行草作品が単なる明清書風の踏襲ではなく、より精神

的、内面的模索を主として制作され、しかもその重要性を鑑賞者に身を以て提示している、と考察する。

そして、それらの技術をもつて、様々な変化に富む線で構築された篆隸作品は、単なる古典的な篆隸書法で書かれたものとは質を異にする。故に篆隸作品が異彩を放ち、「一作一面貌」という信条のもと、その強烈な印象を鑑賞者に与え続けた。このことが、現在のような青山像を一般化させたと考える。

本作品年譜は青山書芸術の初期（一九三六年～一九六二年）を修作時代とし、青山作品研究に関する基礎資料の充実と、青山書芸術初期の特徴と作家としての軌跡をより明確化することを目的として編集を行った。

年譜作成においては、『青山杉雨作品Ⅰ・Ⅱ』（二玄社）掲載の「青山杉雨年譜」「作品目録」（書道研究家・西嶋慎一氏説）を基盤としながら、現在の青山に関係する資料で、一九三六年から一九六二年の作品を最も掲載している『書品』『書道グラフ』中の青山作品を年譜へ新たに加えた。

西嶋氏製作による青山杉雨作品歴（『青山杉雨作品Ⅰ・Ⅱ』掲載）は、青山の書業を七期に区分し、作品の変化について以下のように指摘している。

- 一九三六年～一九六二年（修作時代）
- 一九六三年～一九六九年（作風の確立時代）
- 一九七〇年～一九七六年（前代の試行を受け、展開が盛んに

行われる時代）

- 一九七七年～一九八二年（第一期黄金時代）
- 一九八三年～一九八五年（董其昌論による試作・展開時代）
- 一九八六年～一九八八年（第二期黄金時代）
- 一九八九年～一九九二年（ある境地を求める時代）

この作品歴を通観しても、修作時代と比定される期間が、青山に書家としての自立を促す重要な時期であった事が理解出来る。

よって、作品の所在・作品サイズが不明であっても、『書品』『書道グラフ』の掲載作品は現在全く見る事ができないものであるため、前述の編集目的から資料的価値を考慮し、新たに四十六作品を作品年表に加え、その内容が通観できるよう作品画像を併載した。『書品』『書道グラフ』への作品掲載時期と作品制作時期の異なる場合が想定できるものは、制作時期に即して年譜に加えた。

また、年譜中に以下のような表記を付した。

- △『青山杉雨作品Ⅰ・Ⅱ』に記録されているが作品掲載無し
- 『青山杉雨作品Ⅰ・Ⅱ』に作品掲載（書体）
- 作品年譜に新たに加えた作品（書体）―作品図版番号

この作品年譜から、「青山は篆隸作家である」という印象は受けないであろう。寧ろ作品を詳細に観察すると、この修作時期は、

中国書道史における帖学派の系譜に似た作品が多く確認できる。篆書・隸書作品を発表するのが、四十三歳以降であることから、作品制作に関する篆隸書法への傾倒が早期には確認できない。更に、青山が書活動の基軸としていた日展においては、四十六歳に初めての篆書作品を発表するものの、後は（修作時代において）全て行草作品での出品である。

この修作時代における青山の行草作品は、青山書芸術の基盤と方向性、時代性との葛藤の始まりを探る資料として、興味は尽きない。

前述より考え得る諸問題は、青山書芸術観と当時の書道界の状況を踏まえ、今後の研究課題とする。

作品年譜

1936年（昭和11）24歳

△「菜根譚」第六回泰東書道院展

1937年（昭和12）25歳

○「韋応物・幽居」第七回泰東書道院展〈行〉

1938年（昭和13）26歳

○「白楽天・閒夕」第八回泰東書道院展〈草〉

1939年（昭和14）27歳

△「草書対幅」第九回泰東書道院展 [銅牌受賞]

1940年（昭和15）28歳

○「陳恭尹・日本刀歌」第一〇回泰東書道院展

[特選府知事賞受賞] 〈行〉

1941年（昭和16）29歳

△「白詩四屏」第一一回泰東書道院展優勝

[総裁東久邇宮賞受賞]

1943年（昭和18）31歳

△大日本書道報国会出品 [特選受賞]

1948年（昭和23）36歳

○「李太白詩・送友人尋越中山水」日展 [初入選] 〈行〉

△全日本書道展出品

1949年（昭和24）37歳

○「劉禹錫・和僕射牛相公春日閒坐見懷」日展 〈行草〉

△日本総合書芸展出品 [毎日新聞社主催]

1950年（昭和25）38歳

○「李太白・六首」日展 [特選受賞] 〈行草〉

●「王之渙詩・登鸛雀樓」 [特選受賞] 〈行草〉—1

1951年（昭和26）39歳

●「李太白・二首」日展 [特選朝倉賞受賞] 〈行〉—2

●「李太白・江上吟」謙慎書道展 〈行〉—3

●「李太白・秋浦歌其十」日本書道美術院展 〈行草〉—4

●「李太白・對雪獻從兄虞城宰」毎日書道展 〈行草〉—5

1952年（昭和27）40歳

- 「時として」日本書道美術院展〈漢字仮名交じり文〉―6
- 「王昌齡詩・重別李評事」謙慎書道展
〈行草〉―7
- 「杜子美詩・王閬州筵奉酬十一舅惜別之作」日展
〈行草〉―8
- 「杜子美詩・紫宸殿退朝口号」毎日書道展
〈行草〉―9
- 1953年（昭和28）41歳
 - 「杜子美詩・戲爲六絕句」謙慎書道展
〈草〉―10
 - 「杜子美詩・戲爲六絕句」六日展
〈草〉―11
 - 「杜子美詩・戲爲六絕句」三毎日書道展
〈草〉―12
- 1954年（昭和29）42歳
 - 「李太白・見京兆韋參軍量移東陽」日展
〈行〉
 - 「劉長卿・感懷」謙慎書道展
〈行草〉―13
 - 「蘇東坡詩・縱筆」毎日書道展
〈行草〉―14
- 1955年（昭和30）43歳
 - 「李重華・湖天雜興」謙慎書道展〈行草〉
 - 「氣滿」欧州巡回書道展
〈草〉―15
 - 「無盡藏」毎日書道展
〈篆〉―16
 - 「靜退隱滅明」日展
〈行〉―17
- 1956年（昭和31）44歳
 - 「迢欲塞軀」謙慎書道展
〈隸〉―18
 - 「白樂天詩」日展
〈行草〉―19
 - 「蜻蜓款颺」毎日書道展
〈隸〉―20
- 1957年（昭和32）45歳
 - 「意馬心猿」朝日二十人展《1957年出品》〈隸〉
 - 「白樂天五律」朝日二十人展《1957年出品》
〈行草〉―21
 - 「七言對句」朝日二十人展《1957年出品》
〈行草〉―22
 - 「白樂天七絕二首」朝日二十人展《1957年出品》
〈行草〉―23
 - △第一回日中交換書道展
 - 「萬化齊軌」書道グラフ掲載・四十年代作家〈隸〉―24
 - 「芳草色濃歸路遠 啼鶯意倦出花遲」
迎春慶賀詞文・書道グラフ掲載
〈行草〉―25
 - 「白居易詩・山中五絕句 林下樗」日展
〈行草〉―26
 - 「白樂天詩二首」謙慎書道展
〈行草〉―27
 - 「杜甫詩・刈稻了詠懷」毎日書道展
〈行草〉―28
 - 「吾愛陶隱居」書道グラフ掲載
〈行草〉―29
 - 「壺裡春」朝日二十人展《1958年出品》〈隸〉―30
 - 「白樂天詩・晚秋閑居」朝日二十人展《1958年出品》
〈草〉―31
 - 「白樂天詩・微雨夜行」朝日二十人展《1958年出品》
〈行草〉―32
 - 「縱暢」新春書道小品展《1958年出品》〈隸〉―33

1958年(昭和33) 46歳

○「奇字蟲篆」毎日書道展 〈隸〉

○「詩書繼世」日展 〈篆〉

●「天垂餘慶」書道グラフ掲載 〈行草〉—34

●「謝繹詩」謙慎書道展 〈隸〉—35

●「不羈」新春書道小品展《1959年出品》 〈篆〉—36

●「春潮来」朝日二十人展《1959年出品》 〈草〉—37

●「無礙」朝日二十人展《1959年出品》 〈篆〉—38

●「蘭亭詩」朝日二十人展《1959年出品》 〈行草〉—39

○「庾友・蘭亭詩」朝日二十人展《1959年出品》 〈行草〉

1959年(昭和34) 47歳

○「寒山詩」謙慎書道展 〈行草〉

○「聽鹿鳴」朝日二十人《1960年出品》 〈篆〉

△日本代表書家展

●「逸懷」 〈篆〉—40

1960年(昭和35) 48歳

○「臨楚王禽志鼎銘」 〈金文〉

○「旅情」『近作自選』掲載 〈草〉

○「巖風」朝日二十人展《1961年出品》 〈篆〉

●「陽乘陰」日本代表書家展 〈隸〉—41

●「嘯傲」朝日二十人展《1961年出品》 〈隸〉—42

△第二回日中交換書道展

1961年(昭和36) 49歳

○「田中冬二詩」現代詩・書展 〈漢字仮名交じり文〉

○「靈機」朝日二十人展《1962年出品》 〈隸〉

△サンパウロ・ビエンナーレ

●「趙世昌詩・春閨怨」朝日展 〈行草〉—43

●「歐陽炯・三字令」日展 〈行草〉—44

●「臨鄭登叔鬲」書道グラフ掲載 〈金文〉—45

1962年(昭和37) 50歳

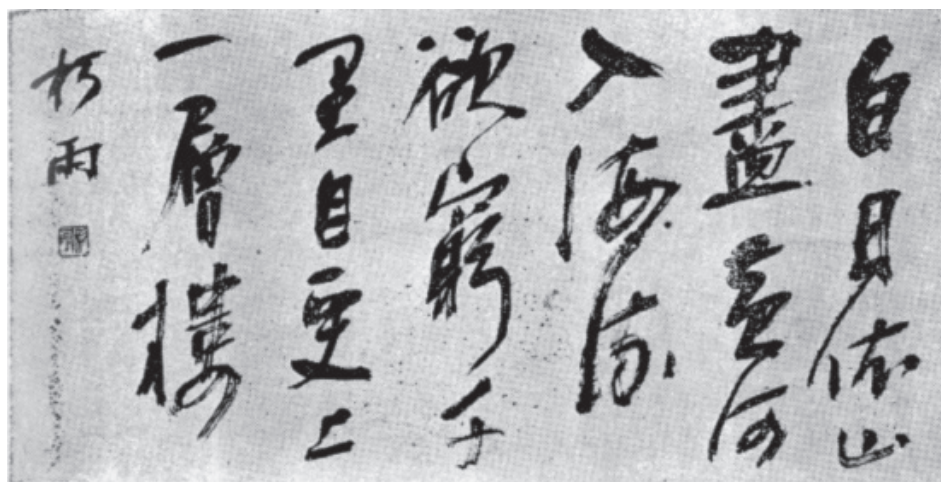
○「蘇東坡・湖橋」毎日書道展 〈草〉

△第三回日中交換書道展

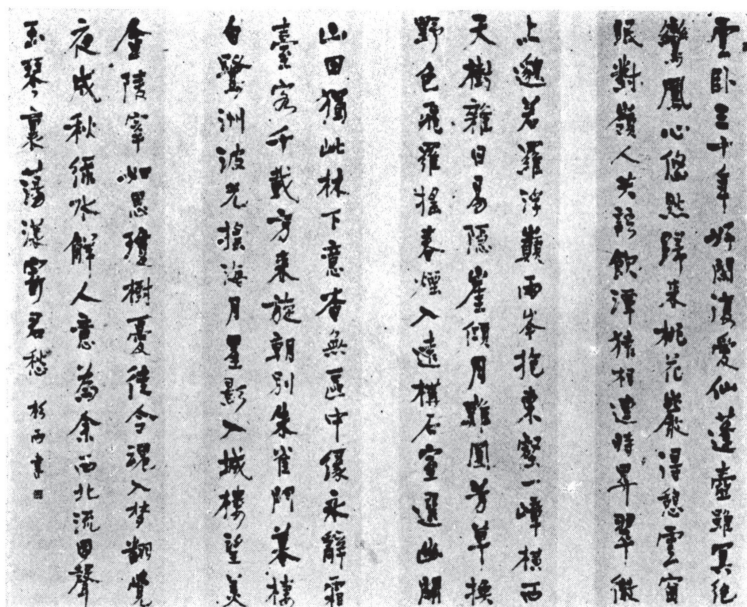
●「王昌齡詩・重別李評事」日展 〈行草〉—46

作品図版

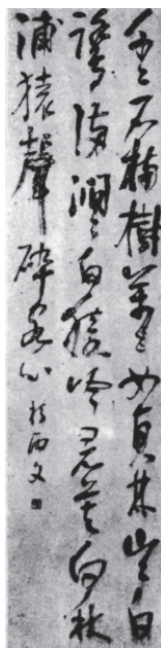
「王之涣詩・登鶴雀樓」——1



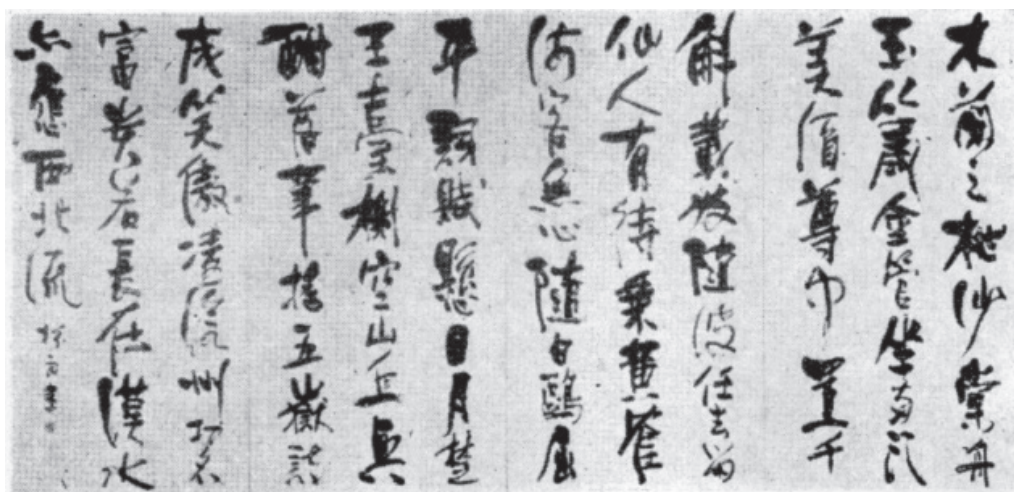
「李太白・二首」——2



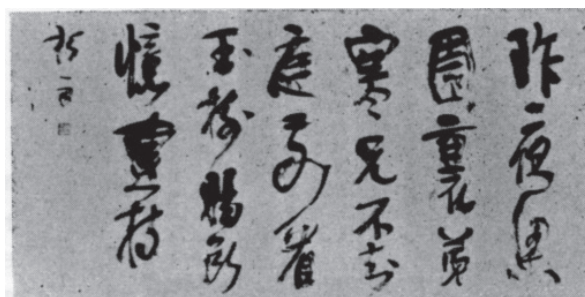
「李太白・秋浦歌其十」——4



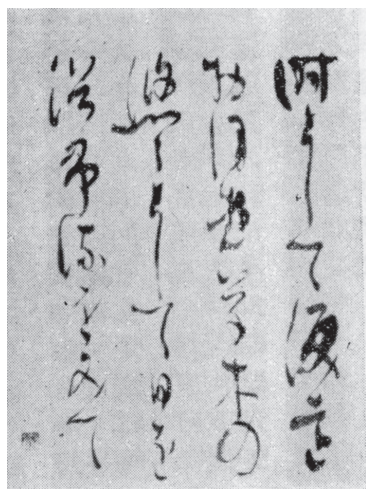
「李太白・江上吟」―3



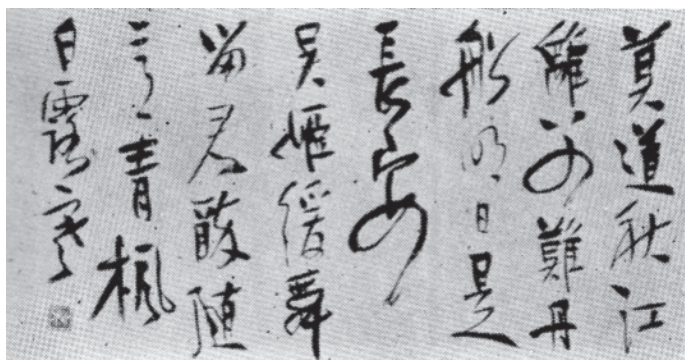
「李太白・對雪獻從兄廬城宰」―5



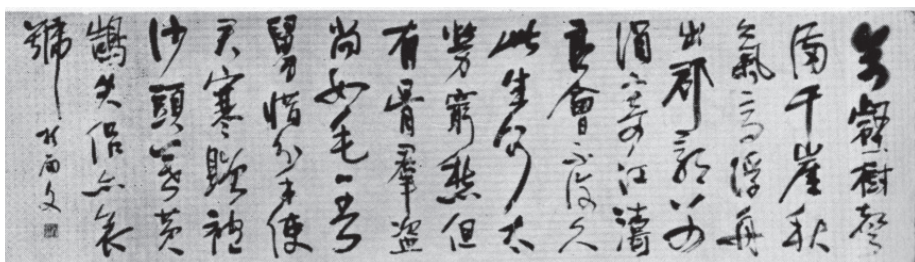
「時として」―6



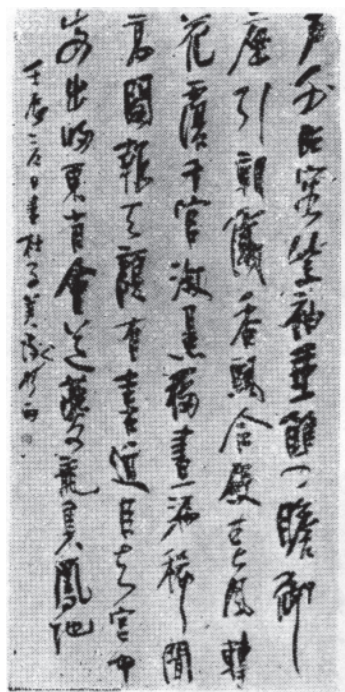
「王昌齡詩・重別李評事」—7



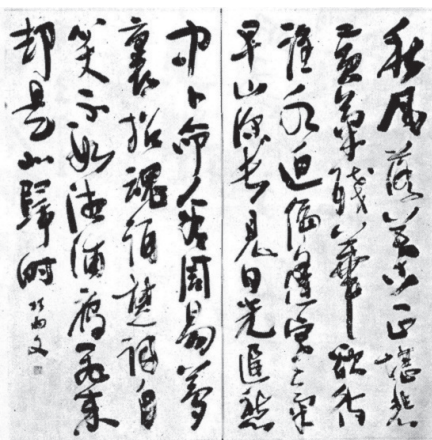
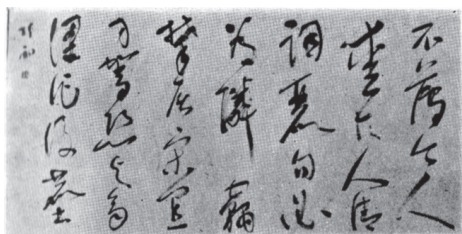
「杜子美詩・王閼州筵奉酬十一舅惜別之作」—8



「杜子美詩・紫宸殿退朝口号」—9

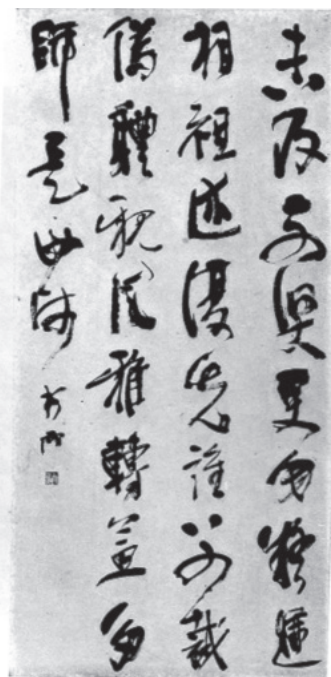


「杜子美詩・戲爲六絕句」—10

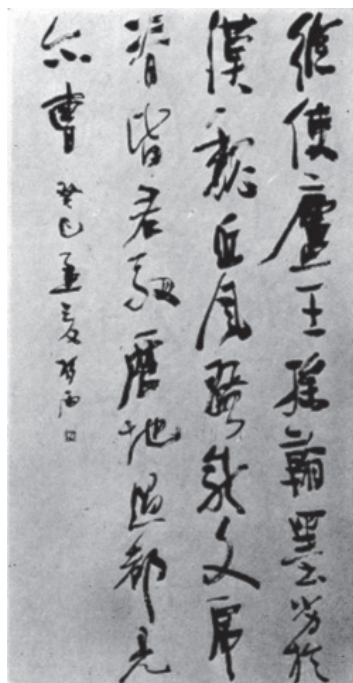


「劉長卿・感懷」—13

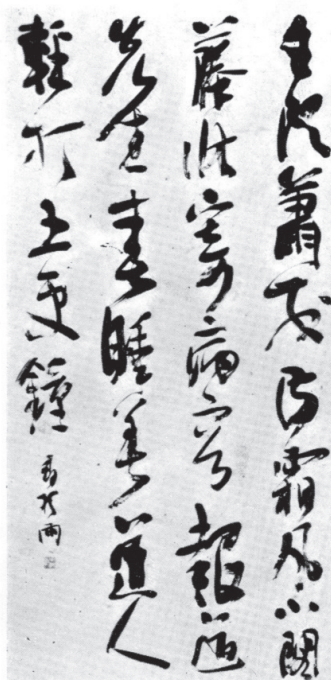
「杜子美詩・戲爲六絕句 六」——111



「杜子美詩・戲爲六絕句 三」——112



「蘇東坡詩・縱筆」——114



「氣滿」——115



「無盡藏」——116

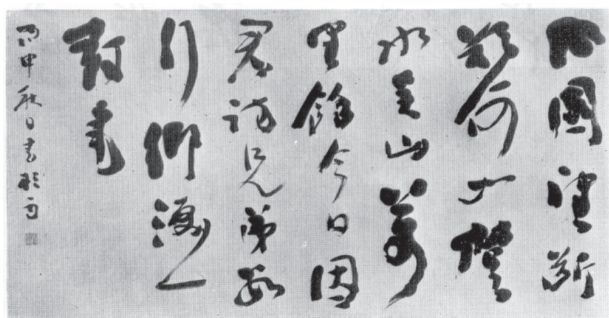




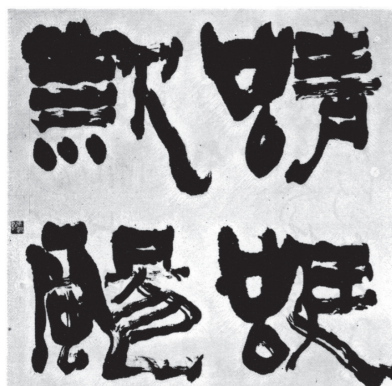
「静退隣滅明」—17



「遼欲塞驅」—18



「白楽天詩」—19



「蜻蜓款颺」—20

「白楽天五律」—21

微服過舊地身痛老大時
送君唯酒銷
銷口不遇是福來摩
牙稱園蔬脚
養能餐仍易地餘暇弄
電光石火

「七言對句」—22

以世時傷
秋花影
空色將消
柏上雲手觸

「白楽天七絶二首」—23

東風先發
新才柳
楊花柳絮
浮字南春
花柳美池
柳長六道
事心爲我
牙在雲端
爲馬痛帝
行馬湖人
到口客處
小春先有
思柳像無
力魏王堤
丁巳三月政雨

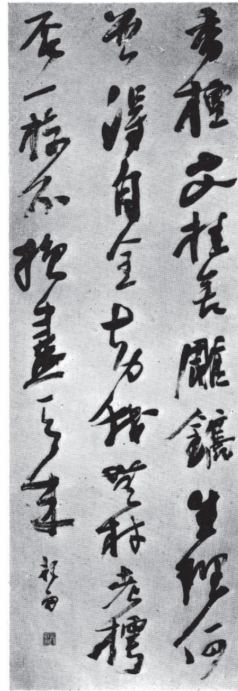
「萬化齊軌」—24

萬化齊軌

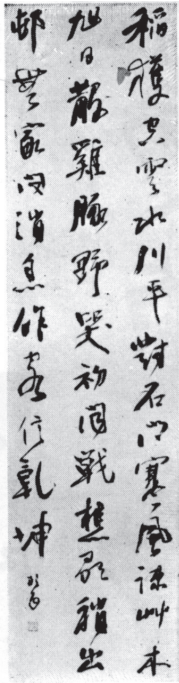
「芳草色濃歸路遠 暗鶯意倦出花遲」——25



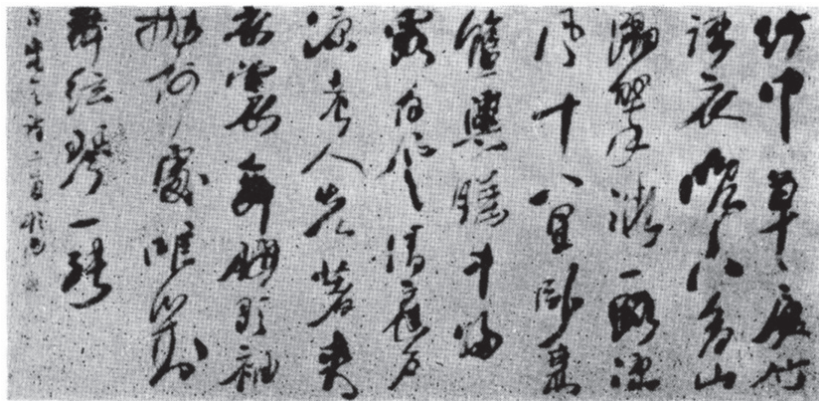
「白居易詩・山中五絕句 林下樽」——26



「杜甫詩・刈稻了詠懷」——28



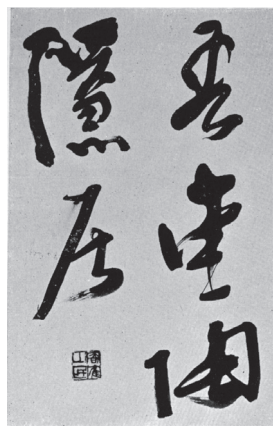
「白樂天詩一首」——27



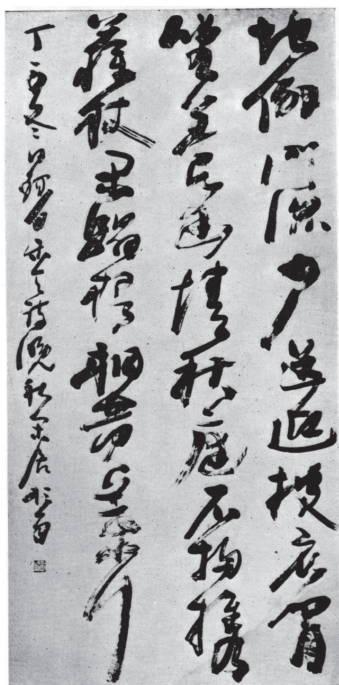
「壺裡春」——30



「吾愛陶隱居」—29



「白樂天詩・晚秋閑居」—31



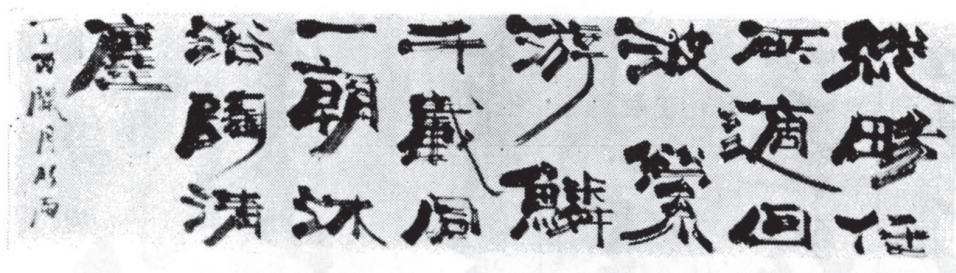
「白樂天詩・微雨夜行」—32



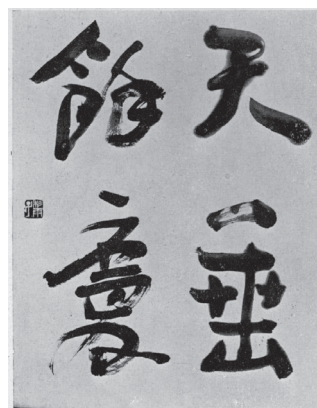
「縦賜」—33



「謝繹詩」—35



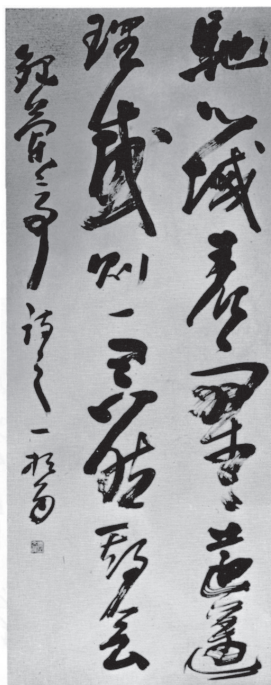
「天垂餘慶」—34



「不羈」—36



「蘭亭詩」—39

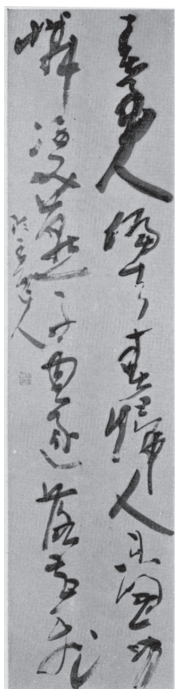


「春潮来」—37



「無礙」—38





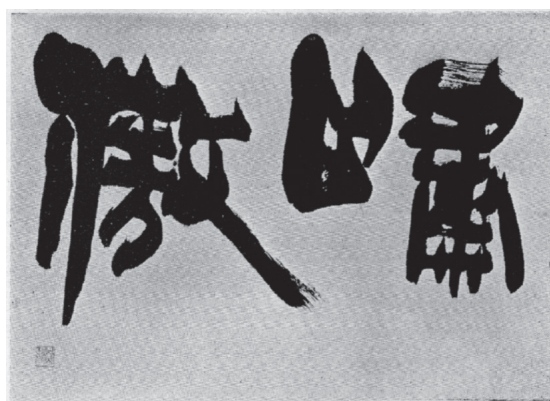
「趙世昌詩・春閨怨」
— 43



「逸懷」
— 40

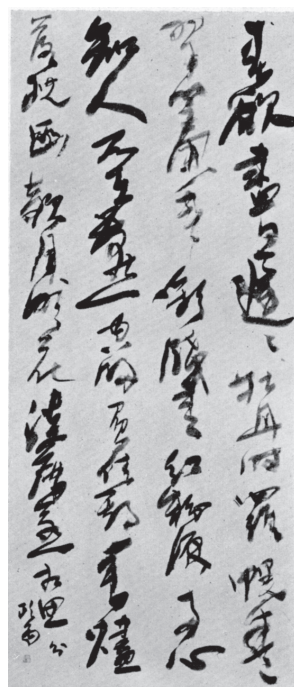


「陽乘陰」
— 41

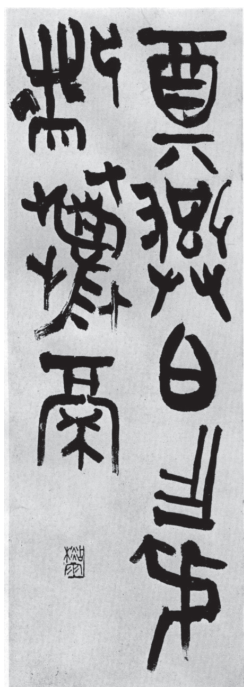


「嘯傲」
— 42

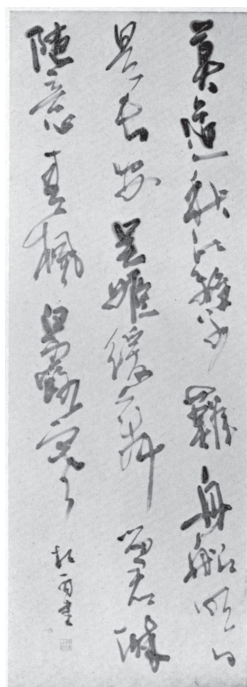
「歐陽炯・三字令」――44



「臨鄭登叔詩」――45



「王昌齡詩・重別李評事」――46



Aoyama San' u List of Works (1936～1962)

Masahiko KOKI

Department of Education and Psychology, Faculty of

Humanities Kyushu Women's University

1-1 Jiyugaoka, Yahatanishi-ku, Kitakyushu-shi

807-8586, Japan

No English abstract